熱中症救護袋を活用した救護フロー

罹患者発見から救急搬送への引継ぎまで

1 ① 罹患者を発見

- 顔色不良、ふらつき、反応低下、けいれん倒れ込み、頭痛等を確認
- 周囲の安全を確保し、複数名で対応開始
- 日蔭、冷房下など安全な場所へ移動

2 ② 初期評価

- 意識、呼吸、脈、会話の可否を確認
- 自力歩行の可否、汗の有無、体の熱感を確認
- 重症が疑われる場合は救急要請を最優先

3 ③ 119番通報/役割分担

- １人は、119番
- １人は、熱中症救護袋・水道水(注水用ホース)等を準備
- １人は、周囲整理と搬送導線の確保

4 ④ 熱中症救護袋を準備

- 熱中症救護袋を広げて設置
- 罹患者を無理なく寝かせる
- 頭部・気道を確保し、呼吸しやすい姿勢を保つ
- 靴を脱がせて、被服で締め付けられている部分を緩める(空調服などは脱がします)

5 ⑤ 水道水で浸漬冷却

- 首の下～体幹・四肢を中心に冷却
- 耳の下を目安に浸漬し、頭部は水面上に保つ
- 冷却中も意識・呼吸・表情を継続観察

6 ⑥ 冷却中の観察・対応

- 会話の変化、反応、震え、苦痛の有無を確認
- 必要に応じて排水し、姿勢を調整
- 嘔吐時は気道確保を優先

7 ⑦ 救急隊到着まで継続

- 発見時刻、冷却開始時刻、症状の変化を記録
- 可能であれば飲水歴、運動歴、既往歴も整理
- 救急隊到着まで冷却と観察を継続

8 ⑧ 救急隊へ引継ぎ

- 発見状況、意識レベル、症状経過を報告
- 冷却方法、冷却開始時刻、排水対応の有無を共有
- 搬送時は、安全確認の上、指示に従って引継ぐ

重要ポイント

反応が悪い、けいれん、自力で水分摂取できない場合は重症を想定

一人で対応せず、必ず周囲と連携する

頭部は水に沈めず、気道確保を最優先

判断に迷う場合は119番通報を優先

引継ぎ時に伝える内容

①発見時刻 ②症状 ③意識・呼吸の状態 ④冷却開始時間 ⑤対応内容 ⑥変化の経過

※図解は、説明を分かりやすくするため製品のイラストは製品仕様が異なる部分がございます。

ninebird

ナインバード株式会社
〒541-0052 大阪市中央区安土町3-4-14 マツダビル６階
TEL:06(7777)1550　contact@n-bird.com